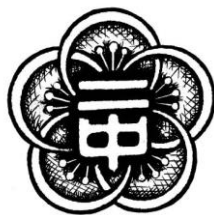


中野区立第二中学校学校だより

若葉 第180号



平成28年12月日

平成28年度第8号

発行者：校長 池田浩二
広報委員会

面接練習

校長 池田浩二

12月に入ると、どこの中学校でも中学3年生の面接練習が始まり、いよいよ本格的な受験モードに入っていきます。二中でも5日から、私と瀧川副校長先生、東郷先生の3人で面接練習を始めました。

日ごろ生徒一人一人とじっくり話をする機会もありますが、面接では知らなかった一面を見ることができるので、忙しいけれども大切な時間です。

いくつかの想定質問をしていきますが、なぜその学校を受験しようと思ったのかという『志望理由』は重要ですから、どの生徒にも質問します。ある男子生徒から、「この学校は校則が厳しいので選びました」という回答が返ってきました。制服からシャツがはみ出していて注意を受けることもある彼は、あまり校則が厳しくない学校を望むのではないかと思ひさらに聞



いてみると、「二中でも先生たちからいろいろなことで注意を受けることがある。今は受験もあるので気持ちを引き締めているつもりだが、入学したら気持ちが緩んでしまうかもしれない。そんな時、校則が厳しい学校の方が自分には向いていると思う」そんな答えが返ってきました。彼なりに自分を見つめ、導き出した志望理由だったのかもしれませんが、彼らにとってこの面接練習が、何かのきっかけになっているのであれば、意味のあるものだと思います。しかし、みんなが口に出した決意のままに進んでいければこんな楽なことはありません。受験期の中学生を見てみると、まさに3歩進んで2歩下がる、時には後退してしまうこともあるのが現実です。彼らが口にした決意が実現できるよう二中全体でサポートしていきたいと思っています。

いくつかの想定質問の中には、『あなたが関心を持ったニュースは何ですか』という質問があります。世の中のいろいろな出来事に、中学3年生なりの意見や感想をもっていることがわかる質問ですが、今年はアメリカ大統領選挙でのトランプ氏の勝利をあげる生徒が圧倒的でした。中学生たちの目を通した1年間を感じ取れる一瞬でもありました。

Ⅰ 組食堂

11月22日（火）、今年度2回目のⅠ組食堂が行われました。今回のメニューは、ぎょうざ定食とぶりの照り焼き定食でした。この2品は、職業家庭（調理）の授業で練習してきたメニューです。特に、ぎょうざは皮で包む作業に苦労しましたが、回数を重ねるごとにみんな上達することができました。当日は、調理係・接客係・会計係に分かれて食堂をオープンさせました。前期に比べ、流れがつかめたこともあり生徒も慣れた様子でした。お客様に温かい料理を提供するために、ホットプレートを使い、作ったものが冷めないよう工夫しました。総勢65名のお客様が来店されました。どのお客様からも「おいしかった」と声をかけていただいたことで、生徒も喜びややりがいを感じることができました。ご来店いただいた皆様、どうもありがとうございました。



調理



接客



会計

環境についての授業（Ⅰ組）

Ⅰ組では作業学習という授業があり、作業学習の一環としてペットボトルの回収、分別、洗浄、粉碎を行っています。先日行われたマラソン大会で飲まれた全校生徒分のペットボトルも回収し、授業に活用しました。ラベルやキャップを取って、中を洗浄し、1晩干す。という作業ですが、毎週100本近いペットボトルを集中して作業を行うことは、なかなか疲れます。作業学習は生活に則し、尚且つ就業を意識した授業なので、話さずに黙々と集中することが大切です。干し終えたペットボトルは、中野区の数カ所のスーパーなどにおいてある粉碎機で粉碎します。ペットボトル1本で2P貯まり、500Pで50円相当の買い物ポイントがたまります。Ⅰ組ではすでに150円相当のポイントがたまりました。また、生活単元の授業内容の中では、3R（リサイクル、リデュース、リユース）について併せて勉強しています。机上で勉強したことを実体験できる活動と結びつけて取り組んでいます。



マラソン大会

11月30日（水）にマラソン大会が行われました。昨年までは国営昭和記念公園で実施していましたが、近隣の道路や公園を使う新しい形のマラソン大会に生まれ変わりました。

全校生徒が17チームにわかれ、駅伝の部と個人走の部で勝敗を競いました。1周1.5kmのコースは、昨年までの男子6km、女子4kmと比べると短いですが、「チームのために」走り終えた生徒たちには、全力を出し切った爽やかな笑顔が見られました。また、仲間を応援したり、上級生がリーダーシップをとったりしながら集団としての成長が感じられたマラソン大会でした。

交通誘導をしてくださった保護者の皆様、生徒の力走に大声援を送っていただいた皆様に感謝いたします。



| 優勝チーム | | ピンクたすき（7グループ） | | キャプテン | | 3A新豊 大海 | |
|-------|-----|---------------|----|----------|----|----------|--|
| 女子区間 | 1位 | 2A 白石 美波 | 2位 | 2A 須藤綺良里 | 3位 | 2B 岡田 仁菜 | |
| | 4位 | 2B 富田胡桃子 | 5位 | 3A 千葉ほのか | 6位 | 2B 吉眞 未来 | |
| | 7位 | 1A 室岡 明星 | 8位 | 3A 井山 千博 | 9位 | 1B 徳永恵瑠紗 | |
| | 10位 | 3C 武村 万和 | | | | | |
| 男子区間 | 1位 | 2A 小野 柊樹 | 2位 | 3C 石井 宗彪 | 3位 | 2A 松本 卓駿 | |
| | 4位 | 3C 佐藤 英雄 | 4位 | 3A 今道 駿介 | 6位 | 1A 嘉山 健斗 | |
| | 6位 | 2B 松田惇史郎 | 6位 | 1B 渋谷 一真 | 9位 | 3C 鈴木 爽太 | |
| | 10位 | 2A 佐藤 龍汰 | | | | | |

2年高校訪問

2年生は、12月1日（木）に、高校訪問に行ってきました。事前学習として、都立高校6校と私立高校6校をクラスごとに半分に分け、その中から、行きたい学校を決め、生活班で、訪問先について調べ、それらの確認のために、生徒どうしの面接試験を行いました。

訪問後、説明してくださった先生方が丁寧で、校舎が広く、電子黒板などの設備も充実していたことなどの感想を述べていました。事後学習では、訪問先での質問などをもとに、手書きの発表原稿を作成し、国語の授業で発表練習をして、12月10日（土）の学校公開にて、各班6分の持ち時間で報告会を行いました。

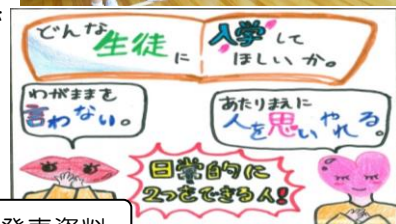
報告会では、訪問先の良さを伝えようと、質問形式など、発表方法の工夫がなされていて、はじめて多くの人前で発表する生徒もいたと思いますが、全員が落ち着いて発表



専修大学附属高等学校訪問



報国会の様子



発表資料

することができていました。少しずつ、進路について、意識する生徒も増えて、今回の高校訪問がとても良い経験になっていました。

学習コンテスト

12月16日（金）に学習コンテストが行われました。本校では、5月に国語と数学の学習コンテスト、12月にはスプリングコンテストと2回学習コンテストを行っています。生徒たちは、面談期間の午後や、朝学習の終わった後の時間などを活用し、「日々の積み重ねの重要性」と「やればできる!」という気持ちを育みたいと思っています。

事前に授業で模擬テストを行った学年もあり、2～3問のミスを当日までにちゃんと克服したいと、前向きな気持ちが見られました。

このような機会を活用し、家庭学習への取り組みをより活発にしたいと思います。

特別支援教育の取り組み ー個性と障害ー

発達障害の子どもに関して、「どこまでが個性になり、どこからが障害と考えられるのか」ということが話題に取り上げられることがあります。その答えは「障害か個性か線は引けない」です。子どもの特性は、環境との関係で本人に不利益がないと感じれば「個性」の範囲であり、現在や将来に不利益が生じるようであれば「障害」となってくると考えられます。障害のある人が抱える葛藤や苦悩は、一般社会で生きるからこそ生じる苦悩であるが、社会の在り方や環境が変わることにより個性の一つになり得るとも言えます。

例えば、注意欠陥多動性障害(ADHD)で落ち着きがなくなってしまうことが出来ないという子は、活動的であることが求められる場面では精力的で即断即決することが出来るという長所を發揮できる子でもあるかもしれません。自閉症スペクトラム障害(ASD)の特徴である興味や関心の偏りは、その分野では誰よりも根気強く学習し、一生懸命取り組むことが出来るという長所になりえます。

思春期頃になると、本来の障害特性だけでなく、環境や周囲の関わり方がその状態に大きな影響を与えます。早期・効果的な支援が受けられず、二次的な問題を引き起こしてしまうケースもありますが、家族や学校といった周囲の柔軟な対応や理解があることによって適応し、「個性」の範囲に収まる子もいます。

発達障害者支援の先駆者である上野一彦先生は「障害とは支援が必要な個性である」と表現しています。子どもたちの特性にあった環境を用意してあげること、子どもたちが自分にあった進路を選ぶことができるように育ちを支えることが私たち大人に求められることであると思います。